

令和6年度 学力向上指導改善プラン

志手原学校長 小山 恵介

学校教育目標		自ら学ぶ意欲と方法を身に付けた、心豊かな志手原っ子の育成		4月		2～3月	
推進主体		学力向上委員会		学力向上に向けての重点的な目標		成果となる目標	
				(指標となる数値等)		具体的な行動目標	
						(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学 力 の 状 況	全国学 力・学 習状況 調査結 果の状 況 (国語、 算数に 関する 質問調 査の結 果を含 む)	国語	○情報の扱い方に関する問題の正答率が高い傾向にある(知識及び技能) ○話し手が伝えたことと自分が聞いたこととの中心を捉えることはできている。 △漢字を文の中で正しく使うことに苦手な傾向がある。 △「話すこと・聞くこと」領域と比べ「書くこと・読むこと」に苦手傾向があると考えられる(以下2点) △目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を調べる力が弱い。 △文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることが難しい。	○文章を要約する力の向上。 ○根拠を明確にした論述する力の向上。 ○語彙力の向上。 ○話し合い活動などコミュニケーション能力を高める学習の充実。	○実生活の様々な場面に於いて、文章を読み取り理解したことを正確に書いたり、自分の考えを伝えたり、言葉を選択して活用することができる。	○教科書の各単元末にある言葉の力を適宜応用し、授業の中で、書いたり、話したりする機会を多く設け、習熟を図っていく。 ○登場人物の相互関係や心情・場面についての変化を読み取ったり、文章を読んで考えたことについて、交流したりする学習活動を学年の発達段階に応じて取り入れていく。 ○学校図書と連携し、学習内容だけでなく読書学習や多読につなげ、学校図書館を活用した学習を進め、文章に触れる機会を増やす。 ○対話的な学びの場を取り入れた授業構成を定着させる(ICTの活用含む)。 ○あてて・課題解決の方法・ふりかえり等のあるノート指導を行う。	
		算数	○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることや比例と関係づけて考える問題の正答率が高い傾向がある。 △学習領域別に見ると特に「図形」の領域に苦手傾向が見られる。 △「選択式」や「短答式」に比べ、「記述式」が苦手な傾向がある。 △加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする計算等に苦手が見られる。 △百分率で表された割合について理解が難しい。 △示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせた棒グラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて説明することが苦手である。	○図やグラフなど資料を基に考える力の向上。 ○解答の根拠(式の意味等)を説明する力の向上。 ○各領域における基礎的な計算の定着。	○実生活の様々な場面において数学的な見方・考え方を働かせて問題解決に活かすことができる。	○目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決をする学習を進める。また、問題解決に至る過程を説明する機会を設ける。 ○テスト後には、誤答を解説して直しをさせることで児童一人一人が自分の間違いを認識し、次の機会の誤答を減らすことができるようにする。 ○苦手な領域の練習問題を状況に応じて適宜行う。	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○どの教科も基礎的な力は付いてきている。 △知識がなく、様々な情報や条件から思考する問題には苦手意識を持っている児童も少なくない。	○漢字の使い分けができるようにする。 ○思考力を問われる問題に対して、情報や条件から考える力の向上。	○前の学年までの配当漢字を9割程度理解することができる。 ○学習課題に応じた解決方法を考え、取り組むことができる。	○テストやプリントなどの学習後に誤答を直しをさせることで児童一人一人が自分の間違いを認識できるようにする。 ○国語や算数などの学習課題について、根拠を基に解決方法を考える習慣をつける取り組みをする。		
	授業等からうかがえる状況(各教科)	△漢字の習得や書字を丁寧に書くのに、困難を示す子どももいる。 △課題を解決するために、粘り強く取り組むことができる児童は多くはない。	○漢字の活用や丁寧な書字などのノート指導。 ○思考力を問われる問題に対して、情報や条件から考える力の向上。	○丁寧な字を書くことを心掛ける児童を増やす。 ○学習課題に応じた解決方法を考え、取り組むことができる。	○ノートや宿題などの字を児童が振り返る機会を設ける。 ○国語や算数などの学習課題について、根拠を基に解決方法を考える習慣をつける取り組みをする。		
学 力 向 上 に 係 る 学 習 習 慣 ・ 生 活 習 慣	全国学 力・学 習状況 調査の質 問の状況	○読書に対する興味が高いとは言えない。 △読書・英語の興味が高い児童は少ない。 ○学習の中でPO・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと感じている児童が多い。 ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ○学習した内容について、分かった点や良く分からなかった点を見直し、次の学習につなげようとしている。 ○生活における規範意識は高い。	○苦手な学習に対する抵抗を少なくする。	○様々な教科で「自分の意見や考え」に自信をもって話することができる児童を増やす。 ○学習面でのきめ細やかな支援・指導で、「自分に得意なところがある」と自信をもって言うことのできる児童を増やす。	○低学年から少しずつ発達段階に応じた学習に取り組む。 ○算数や国語など様々な教科において、つまづきがある児童の支援に取り組む。		
		○行事(運動会・音楽会)への意欲や達成感が高い ○授業に対して前向きである ○友だちとの関係を大切に考えられている △学校以外で自主的に学習をすすめることは難しい	○家庭学習の手引きの活用。	○家庭学習の手引きを活用して家庭での学習をすすめていくことのできる児童を増やす。	○宿題や自主学習などの家庭での学習を定着するように取り組む。		
授業 改 善	・主体的・対話的で深い学びを 目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用(ク ラウド環境を活 かした授業実施 等)	○ICT機器を活用した主体的・対話的な学びになる学習課題(目的)を設定し、友達との交流、自分の活動を振り返る学習等で、気付きがある授業作りを検討している。 ○ICTを活用した授業では、動画、写真、プレゼンテーション、大型テレビなどの活用が多く見られた。中でも「児童が映像で活動を振り返ること」や「自分や仲間への考えをまとめて伝えること」活動が学習に効果的であると感じている。 ○1年生からiPadを活用することで、子どもたちのiPadの操作がスムーズになり、情報の収集・整理・発信ができるなど情報活用能力の高まりも感じている。 ○朝の会や夏休みの課題、学校行事など効果的に考えられる様々な場面でのICT活用が増えていく。	○ICTを効果的に活用した授業づくりの推進。 ○情報活用能力の向上。	○課題を解決するために、授業や学校行事等でICT機器を目的に応じて適切に活用することができる。	○キーボードの文字入力やインターネットの情報の検索、映像編集等、目的に応じてICT機器を操作できるように、発達段階を考慮しつつ低学年から授業で活用する機会を設ける。 ○学習に効果的なアプリケーションの活用など、各教科の学習課題を達成するために活用できるICT教材を検討し、児童が使えようとするよう指導していく。 ○ICT機器等を活用した主体的・対話的な学習や新たな気付きをもたらす学習課題の検討。		
		○児童のプログラミングの思考を育成するために、生活・総合的な学習の時間で様々な魅力ある教材を用いて授業づくりを行っている。 ○ICT機器を活用し、児童の思考が深まり互いにつながり合える授業づくりを行っている。	○プログラミングの思考を育成する。 ○ICT機器を活用し、児童の思考を深める。	○学習課題を達成するために、適切にプログラミングの思考を働かせることができる。 ○児童が目的に応じたICT機器の活用ができる。	○プログラミングの思考を主体的に働かせるために、プログラミングの学習課題(目的)を設定したり、様々な魅力ある教材を活用したりする。 ○ICT機器を効果的に活用する学習課題を設定し、活用する場面を増やす。		
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	○プログラミング教育等の研修に、外部から講師を招き、授業づくりへの助言を頂いた。	○ICT活用やプログラミング教育の在り方についての研修をする。	○プログラミングやICT機器を活用した授業づくりができる。	○プログラミングやICT機器を活用する授業に取り組む。		
	校外研修の状況						
家 庭 ・ 携 帯 機 器 の 開 発 ・ 利 用	家庭・地域等の状況	○学校運営に協力的であり、PTA役員を中心に新しい学校や行事の在り方を考えている。	○行事での地域・保護者との連携協力。 ○子ども・保護者・地域・学校にとってよりよい行事の数や開催の形の検討。	○行事に意欲的に取り組み、達成感を感じることができる。	○行事の回数や内容の検討を行う。 ○子どもたちの日々の練習を評価していく。		
	小・中における教科連携等の状況	○自然学校は小野・母子・志手原、修学旅行は小野・志手原で合同実施し、上野台中学校区で連携して行事を行った。 ○上野台中学校区の6年生で中学校区に向けての事前交流会を行った。	○学力向上に向けた小小、小中連携。	○上野台中学校区との交流を実施する。 ○中学校との連携を図っていく。	○児童・生徒の様子を交流し、校区の状況を把握するとともに児童生徒理解に努める。 ○6年生を中心とした児童の課題や実態について、中学校と交流の場をもつ。		